

論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 学 術 ）	氏名	高橋 愛
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
ハーマン・メルヴィルの小説における「男らしさ」からの逸脱			
論文審査担当者			
主 査	准教授	城戸	光世
審査委員	教授	岡本	勝
審査委員	教授	要田	圭治
審査委員	教授	佐野	眞理子
審査委員	准教授	大池	真知子
審査委員	准教授	的場	いづみ
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、19世紀アメリカを代表する作家ハーマン・メルヴィルの小説に、同時代のアメリカ社会における性規範に対する抵抗が一貫して見られることを示した上で、小説に登場する通念的な男性性から外れた人物たちの逸脱の諸相と、男らしさの通念に対する作者の創作や思想上の変遷を、男性の身体表象や欲望などに注目しつつ丹念に論じたものである。</p> <p>論文は、序章終章を含め全9章で構成されている。まず序章において、作家の生涯や先行研究、同時代の「男らしさ」の理念などを説明したあと、第1章では、長編第1作『タイプー』の語り手の主体構築の試みを分析し、非西欧文明におけるオルタナティブな男性性の提示などを通して、メルヴィルが作家としての出発当初から多様な男らしさのあり方に大きな関心を寄せ、作品に描きこもうとしたことを指摘している。第2章では、第5長編である『ホワイト・ジャケット』を取り上げ、語り手による海軍における笞刑批判と老水兵の笞刑描写を通して、規範に縛られない男らしさが構築される可能性を示していると論じる。第3章および第4章では、メルヴィルの代表作『白鯨』に登場する二人の人物、エイハブ船長と南海人クイーケグに焦点をあて、二人の身体表象や語り手などとの関係性において、二人がいかに同時代のジェンダーやセクシュアリティの規範を超越し、オルタナティブな男らしさを体現する存在として提示されているかを論じている。第5章では、第7長編『ピエール』の主人公が、母親や異母姉、従兄弟との関係を通して性的に曖昧な存在となっていることを指摘し、メルヴィルがこの作品において同時代の「男らしさ」のイデオロギーに対する抵抗を強めていると分析している。第6章では、雑誌に寄稿された中編『ベニト・セレノ』を取り上げ、物語の舞台となるスペイン船における男による男のケアに注目し、この作品で作者は「男らしさ」の理念の不確定性を露呈させるとともに、逸脱的なものを認めようとしない同時代のアメリカ社会を批判していると論じる。第7章では、遺作『ビリー・バッド』において、男の男に対する関心が性規範と衝突することなく存立することの困難さが示されるが、結末部分においては、逸脱的な男の性の在り様を言祝ぐものとなっていると論じる。終章では、メルヴィルがなぜ逸脱的な男らしさにこだわり、それらを一貫して作品に取り上げたかという問題が、幼少期の経験から、船乗りとしての非西欧文明との接触、作家としての不遇や先輩作家との交流、本人の性的志向などに探られ、分析されている。</p> <p>本論文には、同時代の男らしさの規範のとらえ方や作者の創作意図の更なる分析について、今後の課</p>			

題はまだ残るものの、それぞれの作品論が文学批評としての整合性を備えた充実した論考であり、貴重な知見にも富み、申請者の優れた研究能力を示すものとなっている点、審査委員によって高く評価された。また本研究の一部は既に申請者によって各学会等で発表され一定の評価を得ているが、同時代の男らしさの通念への抵抗を作家としての全キャリアや作家の創作意図に探り、初期から遺作まで取り上げ分析し、まとまった論考として提示することには大きな学術的意義がある。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。